

# 投票に行こう！投票率アップへ向けて

たかはし むつこ  
高橋 睦子

●連合・副事務局長

連合は、組合員の政治意識を把握し取り組みへ生かすために、政治意識動向調査を実施してきた。4回目の調査は昨年10月に実施し、地方連合会の協力のもと有効回収率75.4%を得た。この調査では、第46回衆議院選挙、第23回参議院選挙における組合員の投票行動をはじめ、政治に期待する政策等についてたずねた。2014年5月に連合政治センターと労働調査協議会で報告書としてとりまとめ公表した。各調査項目では、性別・年齢別の傾向についても分析した。

一方、昨年9月、「第23回参議院議員通常選挙における年齢別投票状況（総務省）」が公表された。全体の投票率は、選挙区、比例ともに52.61%で前回は5.31ポイント下回り、過去3番目の低さだった。年齢階層別では、20～24歳が31.18%で最も低く、70～74歳が70.94%で最も高い。若い層は、3人にひとりしか投票に行っていないということになる。性別の投票率をみると、20～54歳の年齢層では、女性が数ポイント高く、55～79歳の年齢層では、男性が数ポイント高い。つまり、若い層ほど女性の方が、投票率が高い結果となっていた。

連合組合員の調査（第23回参議院選挙における投票行動）では、全体の投票率「投票に行った（当日、期日前投票、不在者投票）」は83.7%だが、前回選挙と比較して低下傾向にあることや、若年層の投票率が低いことは同じ傾向である。連合組合員においても若年層の政治的無関心の広がりによる投票率低下が進んでいる。

男女別、年齢層別の投票率では、20～24歳は女性の投票率が1.5ポイント高くなっているものの、25歳以上では、どの年齢層も男性の方が

高く、総務省調査とは違う傾向が見られた。これは、連合調査の対象者に役員経験者や現在役員に男性が多いことが要因ではないかと考える。

連合は、国民の政治参加を促進するために、投票率アップの取り組みを進めている。連合作成の「投票に行こう！」「期日前投票促進」リーフレットの配布もその一つである。リーフレットを受け取った組合員の4割強が「投票のきっかけになった」という調査結果が出ており、投票率アップに直接的に影響を与えている。前述の投票率と重ねてみると、若年層や女性組合員は、労働組合役員からの直接的な働きかけだけでなく、リーフレットなどを受け取る機会も少ないのではないだろうか。また、若年層では、投票先を決めるにあたり参考にしたものは、「テレビや新聞などの情報」が目立っており、労働組合からの情報も十分に届いていない。一方で、期日前投票の比率は、若い層ほど高くなっている。利用が進んでいることにも目を向け、期日前投票の働きかけは、投票率向上に効果的であると言える。

非正規雇用、失業率、両立支援など、若者・女性をめぐる政策課題は山積している。投票という形で「政党・政治家に声をあげる」ことは、若年層・女性をめぐる政策の実現に反映させる重要な政治参画である。

来春には、統一地方選挙がある。「投票に行こう！」「期日前投票促進」の取り組みを若い層・女性・非正規組合員に浸透させ、投票率アップをめざすとともに政治参画を高め、すべての働く者・生活者の政策実現につなげていきたい。